

学力調査等の状況	
どの教科も、都の平均を下回っている。また、すべての観点においても東京都の値よりも下回っている。特に英語、理科、社会の教科の「知識・技能」は、都の平均正答率を10ポイント以上下回っている。	

見えてきた課題	
基礎的・基本的な事項をしっかりと理解させ、定着させる指導を継続して行い、生徒が自主的・自発的に学習できるような指導の工夫や、すでに学んだ知識や技能を活用し、筋道を立てて課題を解決する能力を高める指導の工夫を行う必要がある。「関心・意欲・態度」を高める指導を大きな課題として、今後の授業の展開について、強化・改善を図りたい。	

授業をデザインする8つの取組について	
ICT機器の活用	指導方法に効果的なChromebookやプロジェクター等のICT機器の利用を取り入れ、視覚的にわかりやすく、体験的・対話的な授業とする。
価値ある対話の共有	生徒たちが自分の考えを伝え合う中で、他者の考えを認め合い、自己肯定感が高まるようにする。
振り返りの設定	授業で「めあて」をもとに「振り返り」を行い、何を学んだのかを確認し、理解した内容を次につなげる。

各教科における課題を改善するための指導の重点				
	年度当初に設定した重点	第1学年	第2学年	第3学年
国語科	<ul style="list-style-type: none"> Chrome bookを活用し、体験的かつ視覚的な支援を行い、対話的な授業を構成する。 言語活動の充実を図り、思考力・判断力・表現力を向上させる。 	<ul style="list-style-type: none"> スモールステップを踏んだ授業計画のもとに、対話的な活動を充実させる。 文章を作る機会を多くとることで思考力・判断力・表現力の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒がChrome bookで作成した資料のもとに、対話的な活動を充実させる。 自分の考えを述べる授業を多くとることで思考力・判断力・表現力の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒がChrome bookで作成した資料のもとに、対話的な活動を充実させる。 論理的な文章を作る機会を多くとることで思考力・判断力・表現力の向上を図る。
社会科	<ul style="list-style-type: none"> ICT機材を活用し、生徒の興味関心を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ICT機材を活用し、興味関心を高める。 対話的な活動を取り入れることで資料活用能力や思考力の向上を図る。 授業の終わりに振り返りの時間を設定し、概念の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 時事問題について取り扱うことは、身近な社会的事象に対する興味関心を高める。 対話的な活動を取り入れることで資料活用能力や思考力の向上を図る。 授業の終わりに振り返りの時間を設定し、概念の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 時事問題について取り扱うことは、身近な社会的事象に対する興味関心を高める。 ICTを活用し、調べ学習を行うことで資料活用能力や思考力の向上を図る。 授業の終わりに振り返りの時間を設定し、概念の定着を図る。
数学科	<ul style="list-style-type: none"> 標準コースでは、授業の始めに計算問題を行い、基礎計算力を身に付けさせる。発展コースでは、多様な解決方法を発表し合い、共有していけるようにする。また、Chrome bookやプロジェクターを活用し、視覚的にも時間的にも有効に活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業のねらいを明示することで、その時間で定着させる力を明確にする。 授業では前時の振り返り、復習を行い、授業理解をする。 スモールステップの授業を展開し、また、授業での演習時間を多くとることで、基礎・基本の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業のねらいを明示することで、その時間で定着させる力を明確にする。 授業での演習時間を多くとることで、基礎・基本の定着を図る。 生徒に説明させる場面を通して、自分の考えをしっかりと述べる力を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業のねらいを明示することで、その時間で定着させる力を明確にする。 授業で入試対策問題を取り入れ、計算力を身に付けさせる。 Chrome bookやプロジェクターを活用し、視覚的にも時間的にも有効に活用する。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ICT機材を活用し、生徒の興味関心を高めるとともに、学力の定着をはかる。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業規律を確立させ、集中して取り組ませる。 ICT機材を活用し、生徒の興味関心を高めるとともに、基礎学力の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ICT機材を活用し、生徒の興味関心を高めるとともに、学習内容の理解を深める。 自分で調べたり、自分の考えをかく活動を多くとり、基礎学力の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業のねらいを提示して明確することで集中して取り組ませる。 ICT機材を活用し、生徒の興味関心を高めるとともに、学習内容の理解を深める。 自分で調べたり、自分の考えをかく活動を多くとり、基礎学力の定着を図る。
音楽科	<ul style="list-style-type: none"> 鑑賞、合唱や器楽演奏を通し、表現力を身に付け、豊かな情操を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ねらいをはっきり示した上で、音楽の基礎知識や歌唱の基本を身につける。 非定型発問により、多くの発想を認め、自己肯定感を育む。 歌唱においては、歌唱の基本と自己肯定感の上に、歌唱する楽しさを味わう。 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的な知識や技能を伸ばしつつ、鑑賞や表現において応用し、曲の構成を分析する力をつける。 非定型発問により、多くの発想を認め、対話的活動によってさらに表現力を伸ばす。 歌唱においては、歌唱の基礎の上に、ハーモニーの美しさを 	<ul style="list-style-type: none"> 音楽的な知識をさらに高め、多様な表現ができるような力をつける。 歌唱においても、曲想を考え、豊かな表現力を身につける。 多様な音楽を知り、生涯学習としての基礎知識を身につける。

⑬-2授業改善推進プラン(中間改善計画)

各教科における課題を改善するための指導の重点				
	年度当初に設定した重点	第1学年	第2学年	第3学年
美術科	<ul style="list-style-type: none"> ○視聴覚機器を使用し、分かりやすく、達成感を味あわせる。 ○作品鑑賞を通して、一人ひとりを認め合う心を育成する。 ○作品制作を通して、創造活動の楽しさを味あわせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題の説明などは、実物投影機を使用し、視覚的にわかるよう説明する。 ・制作中の作品を鑑賞しあい、互いの良いところを見つけアドバイスする時間をとる。 ・鑑賞活動を通して、個性を認め合い、価値観を広げる指導を行う。 ・様々な素材を使い課題に取り組み生徒の興味を広げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題の説明などは、実物投影機を使用し、視覚的にわかるよう説明する。 ・制作中の作品を鑑賞しあい、互いの良いところを見つけアドバイスする時間をとる。 ・鑑賞活動を通して、個性を認め合い、価値観を広げる指導を行う。 ・様々な素材を使い課題に取り組み生徒の興味を広げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題の説明などは、実物投影機を使用し、視覚的にわかるよう説明する。 ・制作中の作品を鑑賞しあい、互いの良いところを見つけアドバイスする時間をとる。 ・鑑賞活動を通して、個性を認め合い、価値観を広げる指導を行う。 ・様々な素材を使い課題に取り組み生徒の興味を広げる。
保健体育科	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯スポーツを念頭に、自身に適切な運動が処方できるように準備運動を考えさせる。 ・保健では知識習得型、一斉指導型ではなく、保健の知識をもとに自分の生き方や心身の健康増進生活を実践させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業規律を確立させ、集中して授業に取り組ませる。 ○授業の始めに、本時のねらいと目標を伝え(板書できるときは板書する)学習内容を明確化する。 ○課題の説明にはICT機器(プロジェクターや大型TVなど)を使い、視覚的に分かるように、また、正しい動きを理解させる。 ○生徒の状況に合わせ、段階別の課題を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業規律を確立させ、集中して授業に取り組ませる。 ○授業の始めに、本時のねらいと目標を伝え(板書できるときは板書する)学習内容を明確化する。 ○課題の説明にはICT機器(プロジェクターや大型TVなど)を使い、視覚的に分かるように、また、正しい動きを理解させる。 ○生徒の状況に合わせ、段階別の課題を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業規律を確立させ、集中して授業に取り組ませる。 ○授業の始めに、本時のねらいと目標を伝え(板書できるときは板書する)学習内容を明確化する。 ○課題の説明にはICT機器(プロジェクターや大型TVなど)を使い、視覚的に分かるように、また、正しい動きを理解させる。 ○生徒の状況に合わせ、段階別の課題を設定する。
技術・家庭科	<ul style="list-style-type: none"> ○毎時間本時のねらいと作業内容を明確にし、指導の徹底を進めた。机間指導を多くし、個々への助言を適切に行う。 ○ICT機器の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業規律を確立させ、集中して取り組ませる。 ○常に整理整頓に心がける。 ○清掃をしっかりと行う。 ○機器の点検、整備整理整頓に心がけ、安全作業を心がる。 ○お互いの作品を認め合い、大切に扱いお互いに高めあい今後に生かしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業規律を確立させ、集中して取り組ませる。 ○常に整理整頓に心がける。 ○清掃をしっかりと行う。 ○機器の点検、整備整理整頓に心がけ、安全作業を心がる。 ○お互いの作品を認め合い、大切に扱いお互いに高めあい今後に生かしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業規律を確立させ、集中して取り組ませる。 ○常に整理整頓に心がける。 ○清掃をしっかりと行う。 ○機器の点検、整備整理整頓に心がけ、安全作業を心がる。 ○お互いの作品を認め合い、大切に扱いお互いに高めあい今後に生かしていく。
外国語科	<ul style="list-style-type: none"> ○新出文型(文法)の導入や内容理解のための活動などを行う時にICT機材を含む視覚教材を積極的に活用し、なるべく英語で理解を促進し、主体的・対話的で深い学びにつなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の始めに、授業のねらいとめあてを板書して、学習することを明確にする。 ・聞く、話す、読む、書く、の時間をはっきりと区切ることで、授業に集中しやすい環境を作る。 ・Cromebookを活用した段階的指導を積み重ねることで、基礎学力が身に着く授業を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の始めに、授業のねらいとめあてを板書して、学習することを明確にする。 ・既習事項を生かして課題に取り組む活動を増やし、言語運用能力を高める。 ・ALTとのTT授業やCromebookを活用して、体験的学習の場を増やし、基礎基本のより一層の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の始めに、授業のねらいとめあてを板書して、学習することを明確にする。 ・あるテーマに沿った、自由作文やPresentationを積み重ねることで、自己表現力や応用力をつけ、高校入試に向けた対策にする。 ・「教え合い」を通して、Communication能力と学習定着率を上げ、主体的・対話的な深い学びにつなげる。
総合的な学習の時間	<ul style="list-style-type: none"> プロジェクターやChromebookなどのICT機器を活用し、学習テーマに関連した画像や映像を提示することで、視覚的・体験的な学習を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「自分とは何だろう」というテーマで進路学習を行い、自己理解を深め、自己肯定感を高める。 ・プロジェクターやChromebookなどのICT機器を用いた対話的学習を行い、コミュニケーション能力の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒がChrome bookで作成した資料をもとに、対話的な活動を充実させる。 ・学習環境(UD化)をつくり、生徒たちが自分の考えを伝え合う中で、他者の考えを認め合い、自己肯定感が高まるような学習を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・対話的な活動の中で、自己肯定感を高め、集団の中での価値を考える。 ・自分の進路と向き合い、実現のための手立てを考え、能力を高める。 ・ツールとしてのChromebookを活用し、学習を深める力をつける。
特別の教科 道徳	<ul style="list-style-type: none"> ICT機器を利用し、扱うテーマに関連した画像や映像を提示したり、話の流れを可視化することで生徒にとってわかりやすい授業を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器を積極的に利用し、生徒の興味関心を高める工夫をする。 授業でねらいとする道徳的価値を深めることのできる中心発問を設定し、生徒相互のやり取りで展開できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚的な資料や画像などを活用し、イメージを膨らませやすいよう教材を工夫する。 また、中心発問をメインに発問を工夫し、流れをが分かりやすく、また道徳的価値を高められるよう、授業の工夫を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器を活用し、学習に主体的に取り組むことができる工夫をする。 道徳的価値を高めることができるよう、中心発問を軸とした授業の工夫をする。

⑬-2授業改善推進プラン(中間改善計画)

各教科における課題を改善するための指導の重点				
	年度当初に設定した重点	第1学年	第2学年	第3学年
特別活動	学級活動・生徒会活動等において、ICT機器を用いた発表活動を取り入れるなど、ICT機器を有効に活用した活動を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクターやChromebookなどのICT機器を用いた対話的活動を行い、コミュニケーション能力の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒がChrome bookで作成した資料をもとに、対話的な活動を充実させる。 ・学習環境(UD化)をつくり、生徒たちが自分の考えを伝え合う中で、他者の考えを認め合い、自己肯定感が高まるような学習を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・Chromebookをツールとして有効に活用し、対話的な活動を行いながら学年集団を高める。